

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書の訂正報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第4項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成27年4月30日

【四半期会計期間】 第76期第1四半期(自平成25年1月1日至平成25年3月31日)

【会社名】 株式会社アゴラ・ホスピタリティー・グループ

【英訳名】 AGORA Hospitality Group Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 ホーン・チョン・タ

【本店の所在の場所】 東京都港区虎ノ門五丁目2番6号

【電話番号】 03-3436-1860(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役CFO 佐藤 暢樹

【最寄りの連絡場所】 東京都港区虎ノ門五丁目2番6号

【電話番号】 03-3436-1860(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役CFO 佐藤 暢樹

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1【四半期報告書の訂正報告書の提出理由】

当社は、平成19年7月にマレーシアで霊園事業の経営権を有するビューティースプリングインターナショナル社（現・連結子会社。以下、B S I社といいます）の株式を取得した際、B S I社の株式価値が適切に評価されなかった可能性について疑義が生じたことを受け、平成26年12月17日付で当社と利害関係のない外部専門家を含む社内調査委員会を設置し、関連する事実関係の調査を進めてまいりました。

当社は、本件霊園事業の70%持分を所有するB S I社の全株式を平成19年7月に、本件霊園事業の残り30%持分を平成21年8月にそれぞれ取得しておりますが、平成27年3月20日付で社内調査委員会より受領した調査報告書において、B S I社株式の取得時およびそれ以降の株式評価に係る事実関係について調査した結果、今回新たに入手した鑑定書に基づく事実等により、平成19年7月の、本件霊園事業に関する70%持分取得当時の計上額124億円が適切な事業評価と認められないこと、および当時採用された会計処理が適切な処理と認められないとの指摘があり、下記内容の過年度の会計処理の訂正を行いました。

1．B S I社株式の取得原価の訂正

平成19年7月のB S I社株式の取得原価は取得時においてその価値評価が適切に行われていなかったとの調査結果から、社内調査委員会が新たに入手した鑑定書に基づき当時の価値評価を行った結果、株式譲渡契約書上の対価124億円に見合う価値が無かったものと認められたため、平成19年7月の、B S I社株式取得時点における本件霊園事業に関する持分70%の価値約18億円までB S I社株式の帳簿価額の減額を行いました。

なお、平成20年度以降、個別財務諸表において計上されたB S I社株式の減損処理については、その処理を取消す訂正を行いました。

2．開発事業等支出金にかかる会計処理の取消

資本連結手続の結果として生じる差額約121億円は開発事業等支出金（たな卸資産）として会計処理をしておりましたが、今回新たに入手した鑑定書に基づく事実等により、のれんとして会計処理すべきであるとの指摘を踏まえ、連結財務諸表における開発事業等支出金に係る全ての会計処理、すなわち当初計上、原価払出し、減損処理および為替変動処理を取消す訂正を行いました。なお、平成21年8月の、本件霊園事業に関する残り30%の持分取得時における会計処理についても上記と同様の訂正を行いました。

3．のれんの計上

資本連結手続の結果として生じる差額約121億円は開発事業等支出金（たな卸資産）として会計処理をしておりましたが、今回新たに入手した鑑定書に基づく事実等により、のれんとして会計処理すべきであるとの指摘を踏まえ、連結財務諸表において、社内調査委員会が新たに入手した鑑定書に基づき、平成19年7月の、B S I社株式の取得時点における本件霊園事業に関する持分70%の価値18億円までのれんの帳簿価額の減額を行った上で、取得時以後は20年間に渡る均等償却を行いました。なお、平成21年8月の、本件霊園事業に関する残り30%の持分取得時における会計処理についても上記と同様の訂正を行いました。

また、以上の過年度の会計処理の修正にあわせ、過去において判明していたものの重要性が無いため訂正をしていなかった事項の訂正も行うことといたしました。

これらの決算訂正により、当社が平成25年5月15日に提出いたしました第76期第1四半期（自平成25年1月1日至平成25年3月31日）に係る四半期報告書の一部を訂正する必要が生じたので、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、四半期報告書の訂正報告書を提出するものであります。

なお、訂正後の四半期連結財務諸表については、K D A監査法人により四半期レビューを受けており、その四半期レビュー報告書を添付しております。

また、四半期連結財務諸表の記載内容に係る訂正箇所については、XBRLの修正も行いましたので併せて修正後のXBRL形式データ一式（表示情報ファイルを含む）を提出いたします。

2【訂正事項】

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移

第2 事業の状況

1 事業等のリスク

3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

(1) 業績の状況

(2) 財政状態の分析

(4) 重要事象等について

第4 経理の状況

1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

注記事項

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

(セグメント情報等)

(1株当たり情報)

3【訂正箇所】

訂正箇所は_____線を付して表示しております。なお、訂正箇所が多数に及ぶことから上記の訂正事項については、訂正後のみを記載しております。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第75期 第1四半期 連結累計期間	第76期 第1四半期 連結累計期間	第75期
会計期間	自 平成24年1月1日 至 平成24年3月31日	自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日	自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日
売上高 (千円)	830,281	1,703,560	4,275,332
経常利益又は経常損失() (千円)	70,164	61,606	379,944
四半期純利益又は当期純損失() (千円)	53,807	37,664	370,175
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	4,510	2,579	459,175
純資産額 (千円)	8,554,183	8,084,017	8,080,135
総資産額 (千円)	12,024,709	17,197,538	12,612,603
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり当期純損失金額() (円)	0.20	0.14	1.35
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)		0.14	
自己資本比率 (%)	70.7	46.8	63.8

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、第75期は1株当たり当期純損失であり、また、希薄化効果を有している潜在株式がないため記載しておりません。なお、第75期第1四半期連結累計期間は希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

(宿泊事業)

連結子会社化(持分の取得)：ギャラクシー一般社団法人、オリオン一般社団法人、ヴァルゴ一般社団法人、ジェミニ一般社団法人、ギャラクシー合同会社、オリオン合同会社、ヴァルゴ合同会社、ジェミニ合同会社

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間における、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生、又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について、下記事項を除き重要な変更はありません。

継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況

当社グループは継続的に営業損失を計上していることから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、新政権発足後の金融・財政政策への期待感から、外国為替相場が円安基調に転換するとともに日経平均株価も上昇へ転ずるなど、明るい兆しが見えはじめました。しかしながら、欧州金融危機の長期化等により依然として世界経済は減速状態にあるなど、引続き予断を許さない状況が続いております。

当社グループにおきましては、宿泊事業において、昨年10月に当社系列ホテルに加わったホテル・アゴーラ リージェンシー堺を運営管理する株式会社アゴーラ・ホテルマネジメント堺を前期に連結子会社化したこと等により、前年同四半期比で大幅な増収となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の連結業績は、売上高で1,703百万円（前年同四半期比105.2%増）と大幅に増加し、営業利益は7百万円（前年同四半期比55.6%増）となりました。また、営業外収益に為替差益96百万円を、営業外費用に豪州の持分法適用関連会社における分譲住宅の販売不振を要因とする投資損失31百万円計上したこと等により、経常利益は61百万円（前年同四半期比12.2%減）、特別損失に当期に連結子会社化した匿名組合における共同出資者に対する収益分配部分として匿名組合投資損失18百万円を計上したことにより、四半期純利益は37百万円（前年同四半期比30.0%減）となりました。

セグメント別の業績は以下のとおりです。

宿泊事業

宿泊事業部門におきましては、前期に株式会社アゴーラ・ホテルマネジメント堺を連結子会社化したことが寄与し、売上高は1,511百万円（前年同四半期比147.3%増）と大幅な増加となり、第1四半期累計期間としては4年ぶりに利益を計上し営業利益は25百万円（前年同四半期は営業損失14百万円）と、増収増益となりました。

住宅等不動産開発事業

住宅等不動産開発事業部門におきましては、引続き入居率の維持向上と適宜適切な賃貸家賃の見直しに努め、業務の効率化・合理化を推進した結果、売上高は72百万円（前年同四半期比3.1%増）となり、営業利益は36百万円（前年同四半期比16.0%増）となりました。

霊園事業

霊園事業部門におきましては、販売は引続き堅調に推移し、売上高は102百万円（前年同四半期比8.6%増）となったものの、営業損失は12百万円（前年同四半期は営業損失4百万円）となりました。

証券投資事業

証券投資事業部門におきましては、主に当社が香港で保有・運用する外貨建ての外国証券に係る為替差益等が発生したことにより、営業利益は16百万円（前年同四半期比69.5%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

（資産）

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて36.4%増加し、17,197百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べて22.6%増加し、2,777百万円となりました。これは、現金及び預金が438百万円、開発事業等支出金が65百万円増加したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて39.0%増加し14,264百万円となりました。これは、有形固定資産が5,870百万円増加したことなどによります。

（負債）

当第1四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べて101.1%増加し、9,113百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べて1.9%増加し、1,743百万円となりました。これは、短期借入金が100百万円増加したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて161.2%増加し、7,369百万円となりました。これは、長期借入金1,606百万円、匿名組合出資預り金が2,946百万円増加したことなどによります。

（純資産）

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べて0.05%増加し、8,084百万円となりました。これは、利益剰余金が37百万円増加したものの、為替換算調整勘定が38百万円減少したことなどによります。

(3) 生産、受注及び販売の実績

当第1四半期連結累計期間において、販売の実績に著しい変動がありました。その内容については「(1) 業績の状況」に記載の通りです。

(4) 重要事象等について

当社グループは継続的に営業損失を計上していることから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

このような状況を解消すべく、主に以下の内容の諸施策を継続的に実施しております。

__ 宿泊事業

守口ロイヤルパインズホテル（平成24年8月1日「ホテル・アゴーラ大阪守口」としてリニューアルオープン）、浅草ピスタホテル（平成24年7月27日「アゴーラ・プレイス浅草」としてリニューアルオープン）、リーガロイヤルホテル堺（平成24年10月1日「ホテル・アゴーラリージェンシー堺」としてリニューアルオープン）の取得等により大幅に事業を拡大してまいりました。今後も、経営資源を共有化することにより運營業務の集約・効率化を図るなど収益力の向上に取り組んでまいります。

__ 住宅等不動産開発事業

所有している都内賃貸マンションは満室化を目標にコストの低減をはかり収益性を向上させてまいります。

__ 霊園事業

新しい納骨堂の建設を行い、納骨堂の販売に伴う大幅な売上の増加を図ってまいります。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,200,000,000
計	1,200,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年5月15日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	274,158,934	274,158,934	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 1,000株
計	274,158,934	274,158,934		

(注) 提出日現在発行数には、平成25年5月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年1月1日～ 平成25年3月31日		274,158		11,415,834		5,105,960

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 161,000		
完全議決権株式(その他)(注)1	普通株式 273,451,000	273,451	
単元未満株式 (注)2	普通株式 546,934		1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	274,158,934		
総株主の議決権		273,451	

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄には、証券保管振替機構名義の株式が15,000株(議決権の数15個)含まれております。
- 2 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己株式30株が含まれております。
- 3 当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成24年12月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

平成24年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社アゴーラ・ホスピ タリティー・グループ	東京都港区虎ノ門五丁目2 番6号	161,000		161,000	0.06
計		161,000		161,000	0.06

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成25年1月1日から平成25年3月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成25年1月1日から平成25年3月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、KDA監査法人による四半期レビューを受けております。

当社は、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、四半期報告書の訂正報告書を提出しておりますが、訂正後の四半期連結財務諸表について、KDA監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	534,320	972,762
売掛金	383,761	289,345
有価証券	256,773	248,898
貯蔵品	78,521	51,230
開発事業等支出金	549,261	614,730
その他	465,337	605,028
貸倒引当金	2,448	4,028
流動資産合計	2,265,527	2,777,967
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	303,822	4,316,237
車両運搬具(純額)	6,849	6,613
工具、器具及び備品(純額)	47,173	116,123
土地	1,555,520	3,355,313
住宅用賃貸不動産(純額)	4,733,120	4,723,091
有形固定資産合計	6,646,486	12,517,380
無形固定資産		
借地権	5,000	5,000
商標権	199	192
ソフトウエア	20,335	19,920
のれん	1,369,906	1,346,441
電話加入権	364	364
無形固定資産合計	1,395,805	1,371,919
投資その他の資産		
投資有価証券	1,307,643	53,474
長期貸付金	253,430	244,642
長期未収入金	595,580	-
その他	70,660	80,791
貸倒引当金	4,200	4,200
投資その他の資産合計	2,223,114	374,708
固定資産合計	10,265,406	14,264,008
繰延資産	81,668	155,563
資産合計	12,612,603	17,197,538

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	253,268	233,378
1年内返済予定の長期借入金	104,721	174,985
未払金	732,130	689,377
未払費用	179,929	156,642
未払法人税等	62,832	12,966
短期借入金	-	100,500
賞与引当金	28,000	45,418
ポイント引当金	7,006	3,703
その他	343,402	326,900
流動負債合計	1,711,290	1,743,872
固定負債		
長期借入金	1,942,982	3,549,038
匿名組合出資預り金	200,000	3,146,572
退職給付引当金	3,064	3,064
長期預り保証金	619,403	618,269
繰延税金負債	13,366	10,243
その他	42,360	42,460
固定負債合計	2,821,177	7,369,649
負債合計	4,532,467	9,113,521
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,415,834	11,415,834
資本剰余金	5,105,960	5,105,960
利益剰余金	8,415,939	8,378,274
自己株式	12,104	12,104
株主資本合計	8,093,751	8,131,415
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,222	5
為替換算調整勘定	52,866	91,457
その他の包括利益累計額合計	51,643	91,463
新株予約権	29,096	35,542
少数株主持分	8,932	8,522
純資産合計	8,080,135	8,084,017
負債純資産合計	12,612,603	17,197,538

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)
売上高	830,281	1,703,560
売上原価	672,218	1,521,487
売上総利益	<u>158,063</u>	<u>182,072</u>
販売費及び一般管理費	<u>153,242</u>	<u>174,568</u>
営業利益	<u>4,821</u>	<u>7,503</u>
営業外収益		
受取利息	324	56
為替差益	74,628	96,878
消費税等免税益	12,343	17,217
その他	2,421	7,662
営業外収益合計	<u>89,717</u>	<u>121,814</u>
営業外費用		
支払利息	10,971	17,826
持分法による投資損失	<u>13,161</u>	<u>31,369</u>
開業費償却	-	9,509
その他	241	9,005
営業外費用合計	<u>24,374</u>	<u>67,710</u>
経常利益	<u>70,164</u>	<u>61,606</u>
特別利益		
受取補償金	2,814	-
新株予約権戻入益	1,997	-
投資有価証券売却益	-	1,817
特別利益合計	<u>4,812</u>	<u>1,817</u>
特別損失		
固定資産除却損	371	-
特別損失合計	<u>371</u>	<u>-</u>
匿名組合損益分配前税金等調整前四半期純利益	<u>74,605</u>	<u>63,424</u>
匿名組合損益分配額	<u>-</u>	<u>18,027</u>
税金等調整前四半期純利益	<u>74,605</u>	<u>45,396</u>
法人税、住民税及び事業税	18,808	8,156
法人税等調整額	1,989	-
法人税等合計	<u>20,798</u>	<u>8,156</u>
少数株主損益調整前四半期純利益	<u>53,807</u>	<u>37,240</u>
少数株主損失()	-	424
四半期純利益	<u>53,807</u>	<u>37,664</u>

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	53,807	37,240
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,927	1,228
為替換算調整勘定	60,245	38,591
その他の包括利益合計	58,317	39,819
四半期包括利益	4,510	2,579
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,510	2,154
少数株主に係る四半期包括利益	-	424

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第1四半期連結累計期間
(自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日)

(1) 連結の範囲の重要な変更

当第1四半期連結会計期間より、新たに基金拠出金の総額を引き受けたことにより、ギャラクシー一般社団法人、オリオン一般社団法人、ヴァルゴ一般社団法人、ジェミニ一般社団法人、ギャラクシー合同会社、オリオン合同会社、ヴァルゴ合同会社、ジェミニ合同会社を連結の範囲に含めております。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれん償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日)
減価償却費	18,758千円	67,201千円
のれん償却額	23,464	23,620

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成24年1月1日 至 平成24年3月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成24年1月1日 至 平成24年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	宿泊事業	住宅等不動 産開発事業	霊園事業	証券投資 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	611,363	70,170	94,756	53,991	830,281		830,281
セグメント間の内部売上高 又は振替高							
計	611,363	70,170	94,756	53,991	830,281		830,281
セグメント利益又は損失()	14,811	31,077	4,269	53,991	65,988	61,167	4,821

(注)1. セグメント利益又は損失()の調整額 61,167千円は、各報告セグメントに配賦されない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	宿泊事業	住宅等不動 産開発事業	霊園事業	証券投資 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	1,511,848	72,357	102,881	16,472	1,703,560		1,703,560
セグメント間の内部売上高 又は振替高							
計	1,511,848	72,357	102,881	16,472	1,703,560		1,703,560
セグメント利益又は損失()	25,941	36,042	12,636	16,472	65,820	58,317	7,503

(注)1. セグメント利益又は損失()の調整額 58,317千円は、各報告セグメントに配賦されない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

当第1四半期連結会計期間(自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日)

取得による企業結合

(1) 企業結合の概要

被取得企業の名称及び事業の内容

被取得企業の名称 ギャラクシー合同会社、オリオン合同会社、ヴァルゴ合同会社、ジェミニ合同会社

事業の内容 宿泊事業

被取得企業の名称 ギャラクシー一般社団法人、オリオン一般社団法人、ヴァルゴ一般社団法人、ジェミニ一般社団法人

事業の内容 合同会社の保有

企業結合を行った主な理由

当社は、これまでホテル事業の拡充にあたり、ホテル資産保有特別目的会社を利用した匿名組合出資により、一般社団法人を社員とする合同会社を設立し、各ホテル資産(不動産信託受益権)の取得を実施してまいりました。このたび、経営環境の変化により、長期にわたり保有すべき各ホテル資産における実質的な支配力の獲得のため、当該一般社団法人の基金拠出者である株式会社虎ノ門会計による拠出金の総額を引受け、基金拠出者の権利を譲り受ける基金譲渡契約を締結することを決定いたしました。

企業結合日

平成25年2月1日

企業結合の法的形式

基金譲渡

結合後企業の名称

変更はありません

取得した持分比率

ギャラクシー一般社団法人	100.0%
ギャラクシー合同会社	99.9%
オリオン一般社団法人	100.0%
オリオン合同会社	99.9%
ヴァルゴ一般社団法人	100.0%
ヴァルゴ合同会社	99.9%
ジェミニ一般社団法人	100.0%
ジェミニ合同会社	50.0%

取得企業を決定するに至った主な根拠

各一般社団法人に対する基金拠出者の権利を取得し、被取得企業を実質支配することとなったため。

(2) 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

平成25年2月1日から平成25年3月31日まで

(3) 被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価 譲受けた基金の額 1,700千円

(4) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

発生したのれんの金額

155千円

発生原因

取得原価が、企業結合時の時価純資産額を上回ったため、その差額をのれんとして認識しております。

償却方法及び償却期間

発生時の一括費用処理

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	0円20銭	0円14銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	53,807	37,664
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	53,807	37,664
普通株式の期中平均株式数(千株)	274,002	273,997
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額		0円14銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(千株)		450
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年4月30日

株式会社アゴーラ・ホスピタリティー・グループ

取締役会 御中

K D A 監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 佐佐木 敬昌 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 関本 享 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アゴーラ・ホスピタリティー・グループの平成25年1月1日から平成25年12月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成25年1月1日から平成25年3月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成25年1月1日から平成25年3月31日まで)に係る訂正後の四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アゴーラ・ホスピタリティー・グループ及び連結子会社の平成25年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

その他の事項

四半期報告書の訂正報告書の提出理由に記載されているとおり、会社は、四半期連結財務諸表を訂正している。なお、当監査法人は、訂正前の四半期連結財務諸表に対して平成25年5月15日に四半期レビュー報告書を提出した。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。